

中丹の教育

まなび通信

京都府中丹教育局  
第210号  
令和7年12月16日

令和7年度 学級担任のための「みんなの笑顔」特別支援教育研修会

開催日：令和7年9月30日（火）

今年度、中丹プロジェクト21「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクトがスタートし、「全ての子どもが安心して学べる学級づくり」と「全ての子どもが参加できる授業づくり」を研究の柱にして、通常の学級における特別支援教育の実践研究を行っています。

本研修会では、プロジェクト21の取組についてのアドバイザーからの実践報告と、京都教育大学 鈴木先生の講演から、「学級づくり・授業づくりの具体」「支援の考え方」について学びを深めました。

みんなが「できた!分かった!」を実感できる授業づくり～居心地のよい学級を土台にして～  
中丹プロジェクト21アドバイザー 綾部市立綾部小学校 小畑 美和 教諭



【全ての子どもが安心して学べる学級づくりの取組】

- ① 言葉を大切にする  
→指導者が率先して丁寧な言葉を使う。
- ② 子ども同士をつなげる  
→大切なのは、友達とのやり取りを通して楽しい気持ちになること。
- ③ 一人一人を大切にする  
→指導者が一人一人に意識を向けることで、子どもの意識も向く。

【全ての子どもが「できた!」「分かった!」を実感できる授業づくりの取組】

- ① 「やりたい!」と思える導入  
→前時の振り返り、学習の見通しの共有、課題との出会い
- ② 一人一人の参加度、活動度を高める展開  
→多様な学習活動の設定（動作化、学習形態）、視覚化、子ども自身が選択できる支援の提示、教師の声かけ
- ③ 学習したことの定着と新たな気づきにつながるまとめ  
→振り返りの視点の提示、振り返り内容の共有

お知らせ：実践報告のスライド資料を期限付きで公開します ※令和8年1月30日（金）まで  
プロジェクト21の研究員による具体的な実践事例を掲載しています。  
「3 授業づくり」の実践事例には、UDLの視点を取り入れた授業を多数紹介しています。



インクルーシブな授業とは？ ～授業観の再考～  
京都教育大学 講師 鈴木 英太 様



どの学級にも学び方が異なる子どもたちがいます。インクルーシブな授業は、そのような多様性を前提とした、障害の有無に関わらない、全ての子どもを包摂する（排除しない）授業だと考えます。インクルーシブな授業を実現するための1つの方法として、「UDL」が挙げられます。

UDL (Universal Design for Learning) = 多様な子どもたちを主体的な学習者として育てる学習環境デザインの枠組み

UDLの基本的な考え方

学習に関わる問題を、学習者が持つ欠陥として位置付けるのではなく、環境の設計（授業デザイン）で解決する。

具体的なことを  
するの？

【一例】

学習者が自分に合った方法で学べるよう、オプション（学びの選択肢）を用意し、子ども自らが学ぶ主体として選択・調整できるようにします。

- ★「読む」以外に「聞く」、「見る」教材を準備する。
- ★表現する方法を、「書く」以外からも選べるようにする。
- ★複数の課題形式を選べる。  
「この中から3つ選んで解いてみよう」「どの方法でやってみる？」
- ★一人で考えることもできる、先生に聞くこともできる、友達にも聞ける。

参加者の声

- ◇ 一人一人の子どもをもっとよく見て授業づくりをしたり声掛けをしたりすることの大切さを再確認した。例えば、「分からない」という言葉を発する子がいても、「課題がつかめていない」のか「解き方が分からない」のか「書き方が分からない」のか、などを見取っていきたい。
- ◇ 講演の中の、「『支援』とは、いばらを取り除く支援ではなく、自分の特性や得意・不得意を自分自身が分かってどうしたらよいのかを自分で選んだり、切り開いたりする力を付けて行く必要がある」という話が印象的だった。